

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790100323		
法人名	(株)遊子苑		
事業所名	グループホーム遊子苑ながた		
所在地	石川県金沢市長田本町ホ14番地1		
自己評価作成日	令和2年11月13日	評価結果市町村受理日	令和3年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	令和2年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念である「楽しく・仲良く・安心して」暮らしていただくための「家」です。を職員全員が心に刻み支援に努めています。去年は梅干しづくりや、かき餅、しめ縄飾りなど初挑戦をし利用者様の楽しみながら自立を促す支援に繋げています。今年は味噌づくり、梅干しづくり、大根寿司、干し柿と食べ物に関する取り組みが多いですがいちばん利用者様の関心度も高くほぼ皆様が自然に参加されています。また盆踊り大会を施設内ですが行きそれぞれが自己決定できるよう浴衣のデザインを選んで着ていただきました。盆踊りも毎回予行練習を楽しんで参加され本番に踊り終わった時は皆手をたたいて満足されていました。このような場面をもっと多くつくれるようにまた創意工夫をし楽しみをもって暮らせるよう支援をしていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に基本理念を掲示している。ミーティング等で基本理念を唱和し、利用者の方に「楽しく・仲良く・安心して」暮らしていただける家となるよう話し合い実践に繋げるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は利用者の方と近くの公園や主治医のクリニックまで受診に出掛ける事もある。コロナが流行する前は歌の好きな利用者の方は合唱サークル活動にも参加していた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	遊子苑たよりの町内回覧や運営推進会議等で事業所としての活動や認知症の方との関わりを地域の方々に向け知ってもらえるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度の運営推進会議で事業所の利用状況や近況の様子等について報告を行っている。そこでの話し合いで出た意見を運営・サービス質向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員に事業所の活動やサービスの取り組みを運営推進会議で報告している。又介護保険制度で不明なことは都度問い合わせをしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月全体ミーティング時に「身体拘束適正推進委員会」を開き「身体拘束をしないケア」を職員全体で話し合いをし、理解してもらえるように努めている。玄関、出入り口の施錠は行わず利用者の気持ちに寄り添い支援をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月全体ミーティングの中で「身体拘束適正推進委員会」を開き虐待・身体拘束につながっていく”不適切ケア”について話し合い職員同士で声を掛け合える環境づくりにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員にいつでも助言や学ぶ機会を提供できるよう管理者やケアマネは制度を理解しているが現在当フロアには対象となる利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約の際利用者・家族の方に不明な点があれば十分な説明を行い不安のないよう進めている。又、改定時にも十分な説明を行い理解に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「～が食べたい」等利用者の言われたきっかけで行った行事もいくつかある。ご家族様にはコロナ感染予防対策として面会制限が継続している中、TV電話を取り入れ面会対応できるようした。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度管理者ミーティングで代表者は管理者・主任・ケアマネの意見を聞く機会を設けている。管理者はシフト勤務に入り、現場の状況把握に努め提案・アドバイスなどやり取りしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力や実績、勤務状況を把握できるように、日頃から管理者と密に連絡を取っている。職場環境改善に職員の意見を取り入れ整備している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「チャレンジシート」を活用し職員一人一人目標を設定し日々のケアで取り組んでいる。外部研修や訪問診療のDrによる勉強会も行っており知識を深めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生や研修生の受け入れ・他グループホームの見学や連絡会への参加等で同業者との交流を図っている。又、ネットワークづくり等の活動を通じてサービス質向上につながる様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初に本人とゆっくり関わる時間を作り、ゆっくりと関わる時間を設けるようにしている。新しい生活を始めるにあたって不安や戸惑いがないか表情や会話の中から知るよう努めている。又、ご家族からも情報を頂き安心できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に可能な限りご本人と家族に面会に来て頂き不安な事や不明な事などをお聞きし、納得していただける説明を心掛けている。又、入居後のご本人のご様子や電話やお便りでお知らせし、信頼関係がもてるよう努めている。ケアプランの立案時はご家族様からも要望をお聞きし支援につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と面談して伺った要望と知り得た情報を基に課題を抽出しその時必要な支援を見極めるようにしている。又、必要であれば他サービスの利用の検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事を最後まで遂行できるように職員がさりげなく一緒に行動し声かけ等を行っている。そうする事で暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の小さな変化など繊細な事でも家族に報告している。家族と意見交換しながら利用者の支援の方向性を一緒に考えるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防対策として馴染みの方や場所との関係を継続していく事は困難となっている。が、家族はもとより遠方の親戚等の方々と交流が図れるようにTV電話を利用して関係が途切れないよう支援している。音声ははっきり聞こえない利用者の方には職員が間に入り会話を伝える支援し交流の機会を喜ばれていた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格や相性を日々の生活の中から把握し職員がコミュニケーションの橋渡しを行う事で誰一人孤立することなく過ごされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの相談を受けたり受け入れ先探す等の支援を行う体制になっている。又契約時や退去時には家族にその旨十分お伝えしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と一対一で支援を行っている時にその会話内容や表情から本人の希望や意向を把握するように努めている。本人の聞き取りが困難な場合でもその行動、表情から思いをくみ取るよう努めている。又、各自知り得た情報はミーティング等で職員間で情報共有している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活等の情報をご家族や本人、可能であれば今まで利用していたサービス事業所から聴取し、アセスメント内容を職員間で共有しながら支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で利用者の心身状態で新しい発見、変化があれば職員間で共有している。その方の有する力が活用できるよう声掛けや対応に工夫をしたり、環境を整備している。又それに対してどうだったかを話し合いをミーティング等で常に行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度のモニタリングを実施している。担当職員が中心となり本人から思いを聞き取り他職員からも意見を出し合える場を設けている。そのうえでご家族と本人の要望をもとに良い暮らしができるような介護計画作成を心掛けている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はプランに基づいた本人との関わりの中で本人から発した言葉や少しでもいつもと違う状態の変化を記入し、職員間で情報共有し、実践に向け話し合っている。記録は3か月に一回のモニタリングにもいかし、介護計画の見直しにもつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の事を心配されている利用者の方にご家族に協力してもらい家族の手紙や家族写真を持ってきてもらったりした。又、困った事、要望等個々で聞いた時は職員同士で共有し話し合い、取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年事前に地域の夏祭りや秋祭り等の行事を事前に把握し、利用者と一緒に参加していたが今年は感染症対策のため中止している。今後状況が落ち着いたら地域との交流を再開したいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の訪問診療の際には日頃の様子を報告し、気になる点があればその時に相談し指示を仰いでいる。緊急を要する場合はいつでも連絡し主治医の指示が受けられている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には特変時の相談や近況報告などいつでも連絡できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院先に主治医の紹介状や介護サマリー等で十分な情報提供を行い安心して入院生活が送れるように支援している。又病院に伺った際には担当者より入院中の様子や病状をお聞きしスタッフ間の情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される場合、ご家族には近況やこの先起こりえる状況を段階に応じた説明を行い今後の要望など確認している。終末期の支援については施設内のできる事と出来ない事を説明し理解していただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに沿って全職員が行動できるよう話し合いシュミレーションを行っている。又急変時や事故発生時にはその前後の動きや経過など話し合い今後に生かせるよう努めている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒などの症例に応じたマニュアルがあり全職員が読み込み対応できるようにしている。又速やかに行動できるよう救急車依頼や電話連絡対応等の練習を行っている。例年は講習に参加し実践力を身につけるように努めている	けが、転倒などの症例に応じたマニュアルがあり全職員が読み込み対応できるようにしている。又速やかに行動できるよう救急車依頼や電話連絡対応等の練習を行っている。例年は講習に参加し実践力を身につけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	主治医による月2回の訪問診療で利用者の健康状態の確認と薬についても相談、報告をしている。又当日に向けて日頃から利用者の体調変化を職員で共有し看護師に報告している。利用者の状態変化は主治医に指示を仰ぎながら他のバックアップ機関と相談している。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	2ユニットのグループホームと併設のケアホームで各1名ずつ計3名が夜勤者として配置されている。緊急時には3名が協力し利用者につき添う、連絡する、利用者を見守るなど声をかけあい協力して緊急時の対応が行えるようにしている。又夜勤者は他フロアの利用者の状況を申し送り把握できるようになっている。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議時以外にも定期的に避難訓練を実施している。訓練結果や講評については、ミーティング時にも報告し全職員が実践力を身につけるように努めている。施設の防災機器についての場所や使用確認を行っている。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	緊急時持ち出しリック玄関廊下の共用部に常備、非常食、水、コンロも備蓄している。年に一回備蓄リストを点検賞味期限切れのないように交換が必要なものは交換している。場所の周知は徹底している。シェイクアウト訓練を利用者と共に行った。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りやミーティングでは利用者をイニシャルで呼び、個人が特定できない配慮をしている。利用者の居室に入室する時は必ず利用者に声かけを行い私物に触れる時は利用者の了解を得て行っている。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望や思いを伝えやすい環境や雰囲気づくりに努めている。ある利用者は決まった曜日指定でお風呂に入りたいと言われて希望曜日に入浴している。コーヒータイムには好みのカップや砂糖の分量など自分で決めてご自分で入れられている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日によって体調の変化のある利用者は特に皆に合わせる事無く無理強いない。表情などを注視しながらレクやおやつの声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の時に選べる方は一緒に着替えを準備している。季節に合った着替えへの声かけや受診等で出掛けられる方は事前に声掛け化粧をしたりとご自分で準備をして頂けるように支援をしている。月一回の理容ボランティアがある。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苑内で育てた野菜を食事材料に使用したり、技能実習生や外国人の職員が作ってくれるお国の料理も時々提供される。季節の行事にちなんでおせちやXmasの行事等には盛大にしている。又食事の盛り付けや味見を一緒にしたり、配膳、茶碗あらい、片付けなど利用者と協力して行っている。		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人のあった食事形態を行い見る楽しみも大切に箸やスプーンなどご本人が食べやすい物を使用し支援している。水分は一日を通じて水分補給を心掛けている。なかなか水分補給が進まない方は個別に水分量を記録し職員全員で意識付けしている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けをし、出来るところはご本人にして頂き、見守り声掛けを行っている。義歯の方は定期的に消毒を行っている。又食事前の口腔体操も皆で行っている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、一人一人の排泄リズムの把握に努めている。又、自分で自発的にトイレへ行けない方にはトイレに行きたいサインに気づき、ご本人に声かけしてトイレ誘導している。又、足の筋力が弱くなってきている方もなるべく自立での声かけをし、2人介助にて立位の介助をしトイレでの排泄を促す支援に努めている。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を利用し排便状況、状態を職員同士把握している。ご本人が自発的に水分補給をされない方には声掛け、説明等し水分をとっていただけのような支援をしている。トイレに行った際のおなかのマッサージや体操を促す等便秘予防に取り組んでいる		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく一人一人のタイミングや希望に添えるよう支援している。入浴を楽しんで頂けるようユズやカラタチ、ショウブ等を湯舟に浮かばせて季節感や昔の話などを交え職員と一対一での交流をしている。普段話されない方もリラックスして話して下さる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を職員同士把握し、休息や安眠の支援に努めている。不安で訴えの多い方には出来る限り横についてあげたり、話を傾聴したりして、安心して眠れるよう支援している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が担当の薬の薬性に目を通しどんな薬を飲んでいるのか把握している。又、毎日薬のセットをし、一人一人が朝、昼、夕の薬がしっかりセットされているかの確認を職員2人でしっかりとしている。又、利用者の病状の変化、状態、状況を職員は看護師に報告、主治医と相談しながら薬調整を行っている		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人と相談しながら役割・楽しみを持っていただける支援に努めている。歌の好きな方にはTVやiPadを利用して昔の歌と一緒に歌ったり和裁をされていた方には針仕事をお願いしたりしている。どんな時でも終わった後には「ありがとう」「助かった」など「やってよかった」と思える声かけを行っている		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員はその日の希望を聞き卯辰山やクルーズターミナル金沢港などドライブに出かけた。又、近所の公園や苑の周辺散策で季節を感じる物を一緒に見つけたり苑で植えた花など積んで、フロアで飾ったりしている。コロナ感染予防対策で希望に添った支援が難しい所もあったがご本人が自宅にある洋服を取りに行った。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があればご家族の了承の基、所持していただいている。自分で手元にお金があることが安心につながっている方もいらっしゃる。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に了承の上、手紙や電話のやり取りを希望に応じて連絡ができるようにしている。又、携帯を持参して直接連絡を取っていらっしゃる方もいる。手紙が来た時にはご利用者様の気持ちを伝えながら読み上げている		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの位置や居室がわからない等混乱のないよう表示を大きくしたり、好きな俳優の写真を貼るなどその方々の好きな物を取り入れたりしている。季節感が出るような装飾の工夫に心掛け利用者の方と一緒に作り、一緒に見ては共感している。又、フロアには空気清浄機(加湿器)、温度計を置き、湿度、温度にも配慮したりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方同士でTVを見たり、お話し出来るようソファの位置やテーブルの位置に配慮している。気の合った利用者同士が座席を決めたり、出来るだけ利用者主体で過ごせるよう支援している。又、利用者の趣向ややりたい事ができるような工夫を職員同士話し合っ提案している		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人、家族の方と相談しながらレイアウトを決めさせていただく。本人の家で飾っていた物や、愛着のあるぬいぐるみを持って来られる方等いらっしゃる。又、転倒の危険性がある方にはご本人やご家族に相談しその人に合った配慮が工夫している。(床にマットや滑り止めマット、夜よく歩く方には足元に採光している。		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、トイレ、風呂等に手すりを設置されている。風呂や下肢筋力低下予防の体操に使用したり、「出来ること」をしてもらえる支援に心がけている。又、ゴミ箱や電気のスイッチを分かるように表示したり、歩行の妨げにならないように配慮している		